

(資料1) 令和5年度 磐田市立富士見小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標(成果)	結果	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
深く考える子	(目標)目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める  (取組)子供一人ひとりの学びの過程を保証する授業づくり	・「自分と友だちの考えをくらべて、考えている。」と答える児童の割合90%以上。	88%	B	○授業では、問題解決のために、児童自身が自分で解決方法を選んだり、必要な資料を作成したりしていることに肯定的であることが児童質問紙等により明らかになった。 ※昨年度の反省を踏まえ、家庭学習と授業のつながりが持てるよう、端末を利用し、反転学習を取り入れたり、児童が家庭の中で課題を見付け、学習したりするようにした。成果として、授業で思考する場面の時間が増えた。課題としては、児童のアンケートから、課題解決の方法を自分で考えることは不十分であることが分かった。	・子供一人一人の考え方を伸ばし、先生の押しつけでないことがよくわかる。 ・先生方が子供をよく見て個にあった指導をしている。 ・ICTの活用と板書の工夫を組み合わせて取組んで欲しい。
深くかかわる子	(目標)自他を尊重する心を持ち、正しく判断し、よりよい自分を発揮する子供  (取組)一人ひとりの子供の居場所づくりと活躍の場の保証による主体性の育成	・「友だちと話したり、活動したりすることが楽しい。」と答える児童の割合95%以上。	92%	A	○「周りの人に挨拶したり、ルールを守ったりして、友だちと一緒に楽しく活動している」と答えた児童が92%であった。安定した人間関係が構築されてきていることが分かる。ペア学年での清掃を行うようになり、交流が盛んになった。  ※学校評価や人間関係作りアンケートなどの調査を活用して、個々への支援を充実させていく。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、医療機関と連携して教育活動に取り組む。	・児童の声を学級経営に反映させることができている。教師が「いいよ」「大丈夫」と声をかけながら、適切に「心のしつけ」「体のしつけ」ができており、安全、安心、安息の中で人間関係を構築させていた。 ・掲示が整然としており、環境が整えられている。
心も体も健康な子	(目標)しなやかな心を持ち、心身を鍛え合い、困難に挑戦する子供  (取組)9年間を見通した健康教育の推進・レジリエンスの育成	・「健康な心と体づくりに向けて、自分のめあてに向かって取り組んでいる。」と答える児童の割合90%以上。	93%	A	○個性の強い子供たちの表れにも”なびかない”強さがある。自分がやるべきことを的確に捉えて行っていることが、学校評価等から分かる。  ※インプット(自分の中で試行錯誤したり、どうすればよいか考えたりすること)は得意だが、アウトプット(発表したり、行動したりすること)には苦手意識をもつ児童が多い。目標の可視化や委員会などの主体的な活動を充実することで、目標を達成したときに充実感を味わえる活動を行っていききたい。	・トイレが少し汚かった。場を清める意識を子供にもたせた。 ・なわとび記録会が行われていた。五感を使う取組も大切にしたい。 ・親子弁当の日の取組がよかった。それぞれの家庭で弁当ができるまでのドラマがあったのではないかな。学校の意図が家庭に伝わる取組であった。
命を大切にする子	(目標)平和を愛し、かけがえのない命を大切にし、精一杯生きる子供  (取組)自他の命をかけがえのないものとして、自分らしく命を輝かせる人の育成	・「命を大切にしている。」と答える児童の割合100%	96%	B	○運動会を一日開催に戻した。昼休みなど児童が自主的な練習をしており、学年間の交流も盛んになった。  ※5月と7月に全員が対象の個人面談を実施した。その他の月に、希望性の教育相談を行った。オンラインを活用した面談も実施した。本校の教育に関して、共有できた。今後、子供自身との教育相談の場を増やしていくことで、個を活かす指導をしたい。	・安全は当たり前と感じ、慢心してはいけない。安全意識の継続が大切。 ・保護者が忙しい様子が伝わるが、もう少し家で子供をみて欲しいと感じる。
ふるさとを大切に	(目標)郷土に学び、自ら考え、地域社会によりよく関わる子供  (目標)郷土と自分との関わりに気づき、郷土を思い、自分たちにできることを探し、地域社会に貢献する人の育成	・地域のことに関心があり、自分にできることをしている。 75%	84%	B	(学校運営協議委員からの評価) ○コミュニティースクールの機能が活かされている。ミシンボランティア、清掃ボランティア等、学校の活動を手伝う保護者や地域の方が多い。気持ちよく活動している。 ※子供が、あいさつの習慣を身に付けることができるように、学校・家庭・地域が連携して活動していく。大人からあいさつをし、子供のあいさつを引き出すことを継続していきたい。 ○地域に関して、親が興味をもたないと、子供はもてないのではないかな。 ○コードモンを通じて、端的に学校の活動の意図が分かる学年通信があった。学校と保護者が共育する。学校と保護者が同じ方向を向くことができる良い取組である。	

学校関係者評価を受けてのまとめ

教育活動を理解していただき、高く評価を得た。企業関係の協議委員から、「学校評価は、学校が目指すものを保護者に伝え、保護者が学校に期待するものを表している。①次に起こすアクションが大切にする。②カテゴリー別に分類する。ことを行って、よりよい学校を目指して欲しい」とのことであった。学校評価によるPDCAサイクルにより、随時アクションできるようにしたい。